

かつらぎ町地域福祉計画・地域福祉活動計画
策定のためのアンケート調査
結果報告書

令和 6 年 1 2 月
かつらぎ町

目 次

I アンケート調査の概要.....	1
1 調査の目的.....	1
2 調査概要.....	1
3 報告書の見方.....	1
II アンケート調査結果.....	2
1 あなた自身について.....	2
2 お住まいの地域について.....	5
3 災害などの緊急時の対応について.....	15
4 生活困窮の問題について.....	19
5 成年後見制度について.....	20
6 こころの健康と自殺対策について.....	21
7 福祉と福祉サービスについて.....	23
8 「かつらぎ町の地域福祉施策」について.....	26
9 「社会福祉協議会」の活動について.....	30
地域福祉に関するご意見（自由回答）.....	32

I アンケート調査の概要

I 調査の目的

本調査は、住民の福祉に対する考えや地域活動への参加状況などの実態を把握するとともに、ご意見、ご提言を広くお聞きし、計画を策定するための基礎資料として実施しました。

2 調査概要

◇調査対象者：かつらぎ町在住の18歳以上の方（無作為抽出）

◇調査期間：令和6年10月15日（火）～10月29日（火）

◇調査方法：郵送配布・郵送回収による本人記入方式

配付数	有効回収数	有効回収率
1,600 件	704 件	44.0%

3 報告書の見方

◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答（複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式）であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。

◇複数回答（複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式）の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。

◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。

◇図表中の「n（number of case）」は、集計対象者総数（あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人）を表しています。

◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。

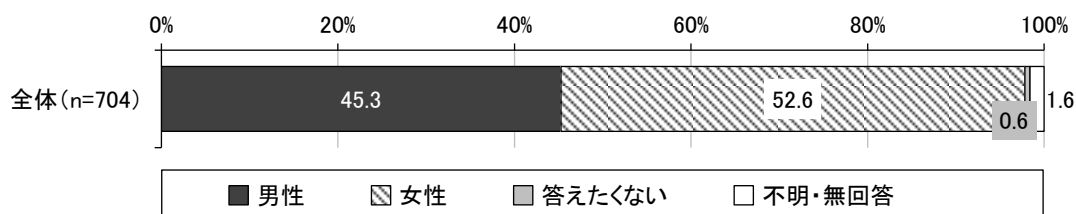
◇「その他」「不明・無回答」を除き、回答の高いもの**第1位**と**第2位**に網掛けをしています。

Ⅱ アンケート調査結果

Ⅰ あなた自身について

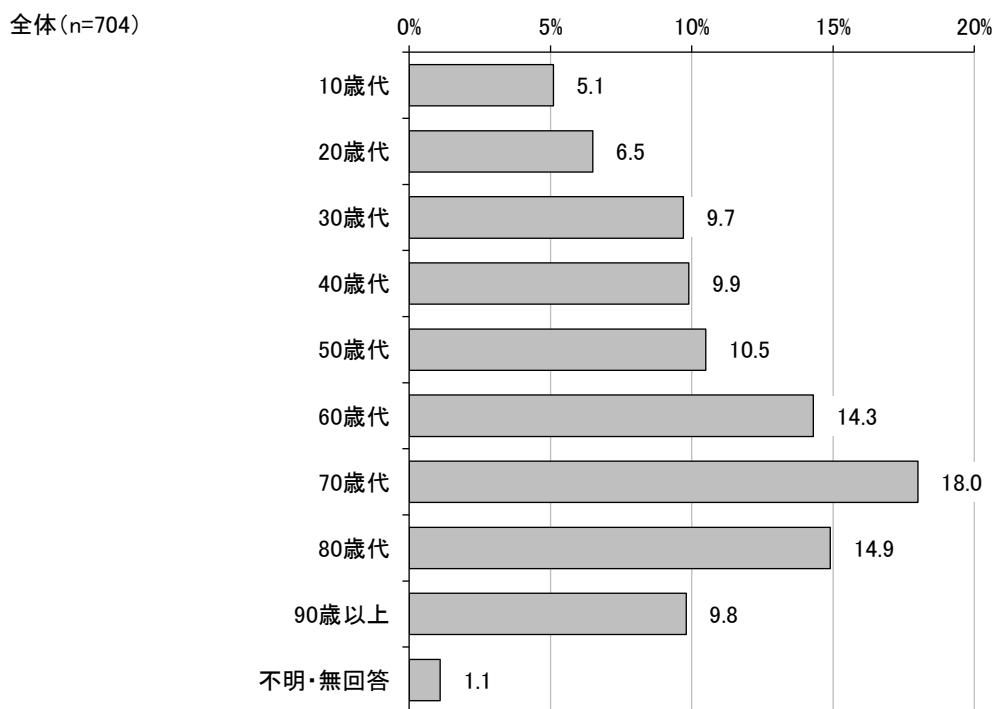
問1 あなたの性別をお答えください。(いずれかに○)

性別についてみると、「女性」が52.6%、「男性」が45.3%となっています。



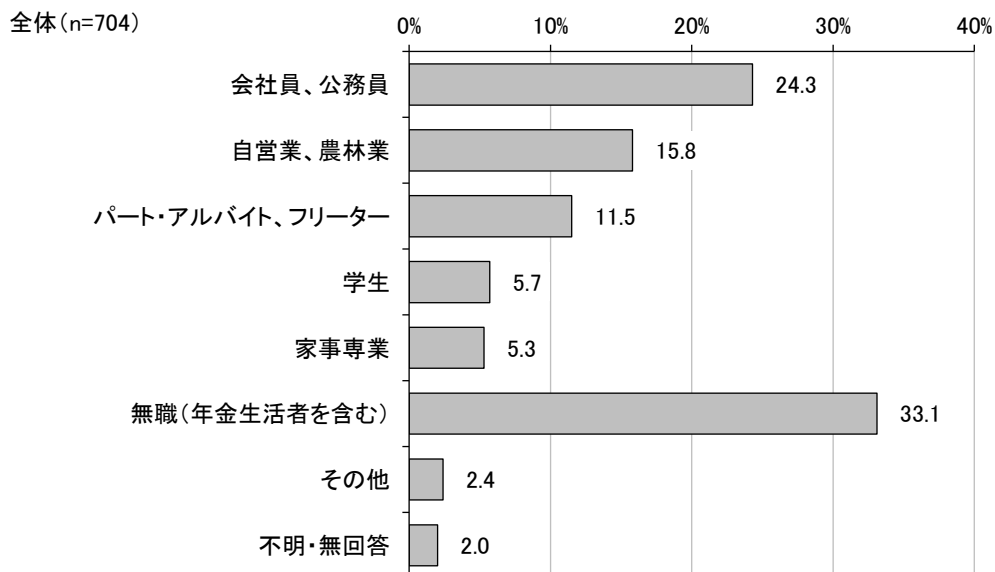
問2 あなたの年代はどれですか。(ひとつだけ○)

年代についてみると、「70 歳代」が 18.0%と最も高く、次いで「80 歳代」が 14.9%、「60 歳代」が 14.3%となっています。



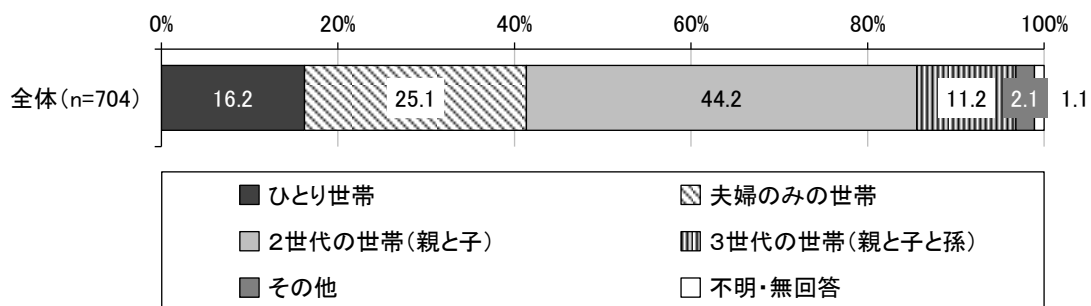
問3 あなたの主な職業は何ですか。(ひとつだけ○)

回答者の職業についてみると、「無職（年金生活者を含む）」が 33.1%と最も高く、次いで「会社員、公務員」が 24.3%、「自営業、農林業」が 15.8%となっています。



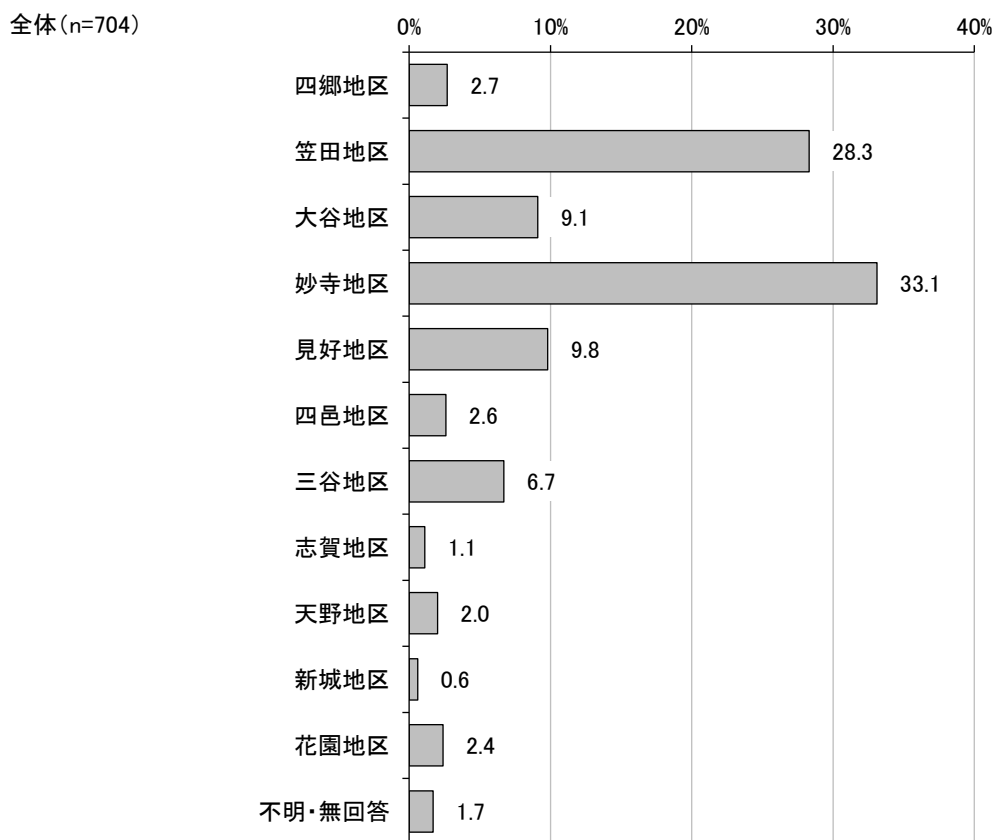
問4 あなたの家族構成はどのようになっていますか。(ひとつだけ○)

回答者の家族構成についてみると、「2世代の世帯（親と子）」が 44.2%と最も高く、次いで「夫婦のみの世帯」が 25.1%、「ひとり世帯」が 16.2%となっています。



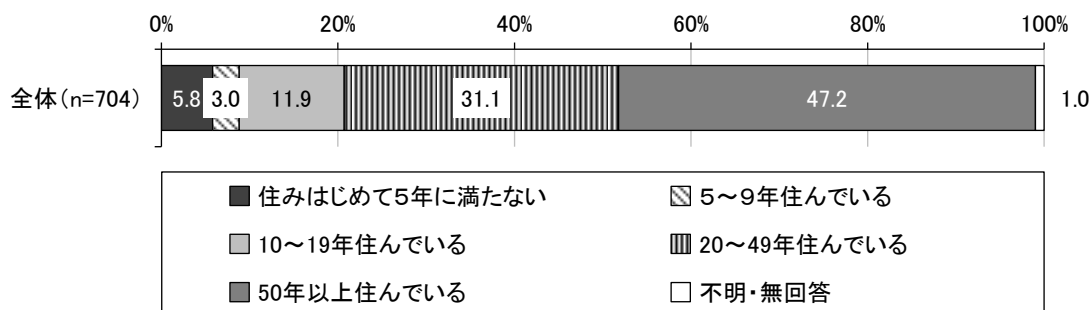
問5 あなたのお住まいをおたずねします。(ひとつだけ○)

住んでいるところについてみると、「妙寺地区」が33.1%と最も高く、次いで「笠田地区」が28.3%、「見好地区」が9.8%となっています。



問6 あなたはかつらぎ町に何年住んでいますか。(ひとつだけ○)

回答者の居住年数についてみると、「50年以上住んでいる」が47.2%と最も高く、次いで「20～49年住んでいる」が31.1%、「10～19年住んでいる」が11.9%となっています。

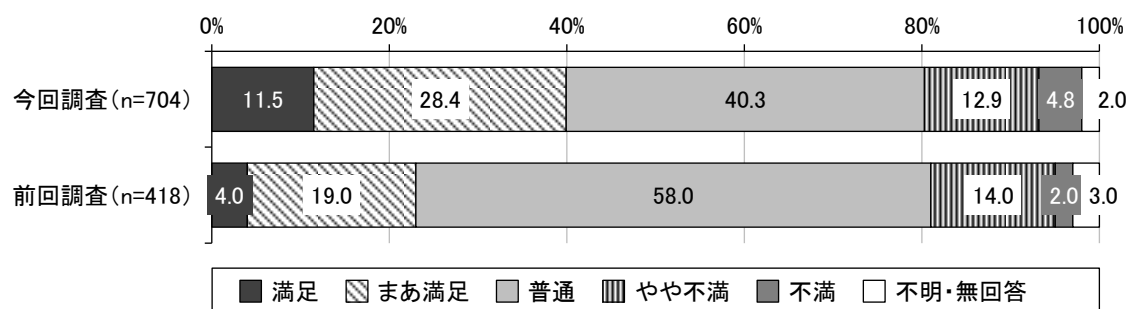


2 お住まいの地域について

問7 あなたは地域の暮らしやすさを総合的に見て、どの程度満足されていますか。(ひとつだけ○)

地域の暮らしやすさについてみると、「普通」が 40.3%と最も高く、次いで「まあ満足」が 28.4%、「やや不満」が 12.9%となっています。

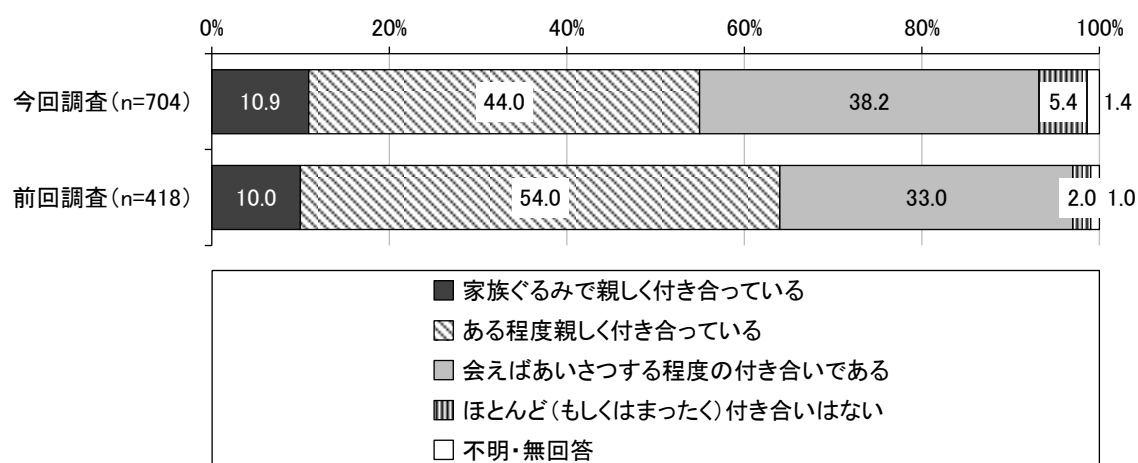
前回調査と比較すると、『満足より（「満足」「まあ満足」の計）』は 16.9 ポイント増加し、「普通」が 17.7 ポイント減少しています。



問8 普段、近所の人とどの程度の付き合いをしていますか。(ひとつだけ○)

近所付き合いの程度についてみると、「ある程度親しく付き合っている」が 44.0%と最も高く、次いで「会えばあいさつする程度の付き合いである」が 38.2%、「家族ぐるみで親しく付き合っている」が 10.9%となっています。

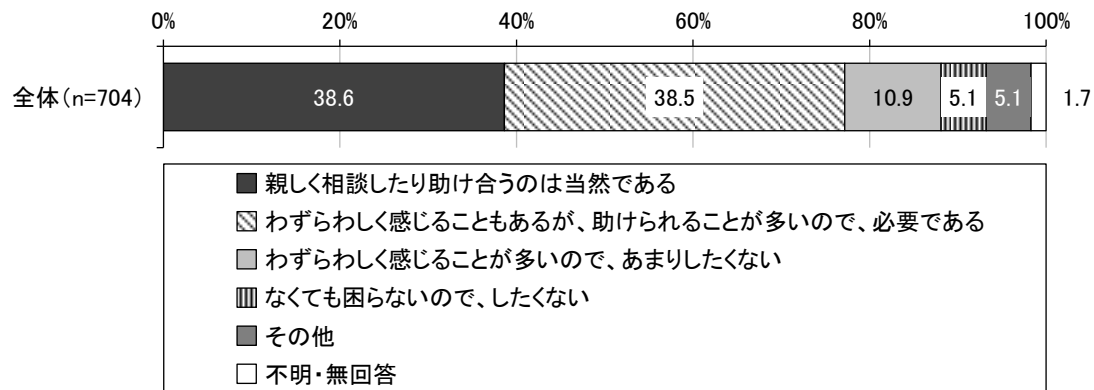
前回調査と比較すると、「ある程度親しく付き合っている」が 10 ポイント減少し、「会えばあいさつする程度の付き合いである」「ほとんど（もしくはまったく）付き合いはない」がそれぞれわずかに増加しています。



問9 近所の人との付き合いに対する考え方はどのようなものですか。(ひとつだけ○)

近所付き合いの考え方についてみると、「親しく相談したり助け合うのは当然である」が38.6%と最も高く、次いで「わずらわしく感じることもあるが、助けられることが多いので、必要である」が38.5%、「わずらわしく感じる人が多いので、あまりしたくない」が10.9%となっています。

年代別にみると、「親しく相談したり助け合うのは当然である」は10歳代で3割なかば、20歳代～50歳代は2割前後、60歳代～80歳代にかけて上昇しています。



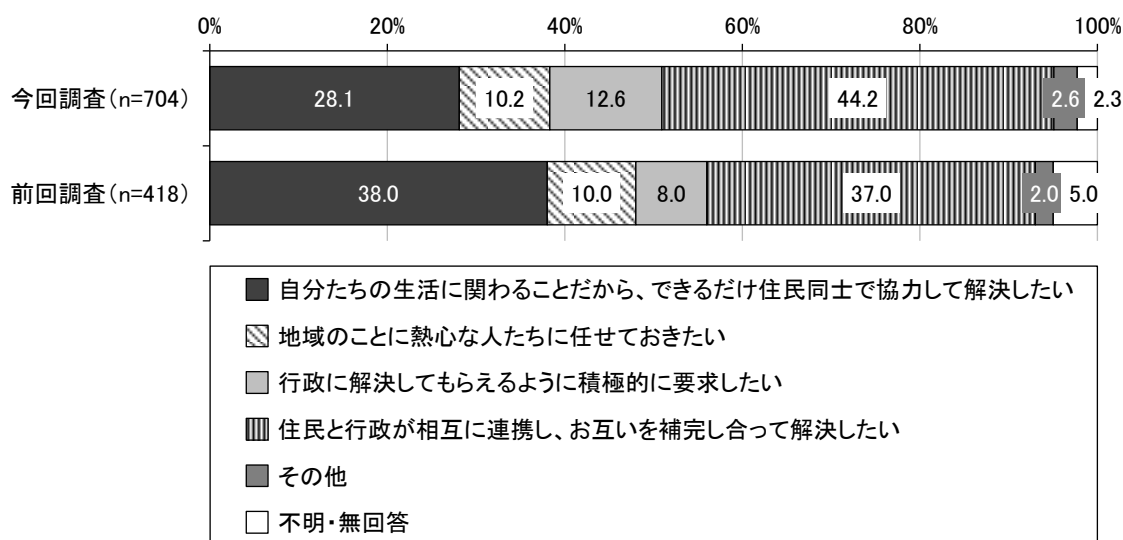
〈年代別〉

単位: %		は親しく相談したり助け合うのが当然である	わずらわしく感じることもあるが、助けられることが多いので、必要である	わずらわしく感じる人が多いので、あまりしたくない	なくても困らないので、したくない	その他	不明・無回答
全体 (n=704)		38.6	38.5	10.9	5.1	5.1	1.7
年齢別	10歳代 (n=36)	36.1	27.8	19.4	8.3	8.3	0.0
	20歳代 (n=46)	21.7	39.1	19.6	8.7	10.9	0.0
	30歳代 (n=68)	17.6	45.6	14.7	13.2	8.8	0.0
	40歳代 (n=70)	20.0	60.0	7.1	7.1	5.7	0.0
	50歳代 (n=74)	23.0	39.2	21.6	8.1	6.8	1.4
	60歳代 (n=101)	39.6	44.6	7.9	1.0	5.9	1.0
	70歳代 (n=127)	48.8	36.2	8.7	3.1	1.6	1.6
	80歳代 (n=105)	60.0	28.6	5.7	2.9	1.9	1.0
	90歳以上 (n=69)	58.0	27.5	7.2	1.4	4.3	1.4

問 10 日常生活の中で起こる問題をどのように解決すべきだと思いますか。(ひとつだけ○)

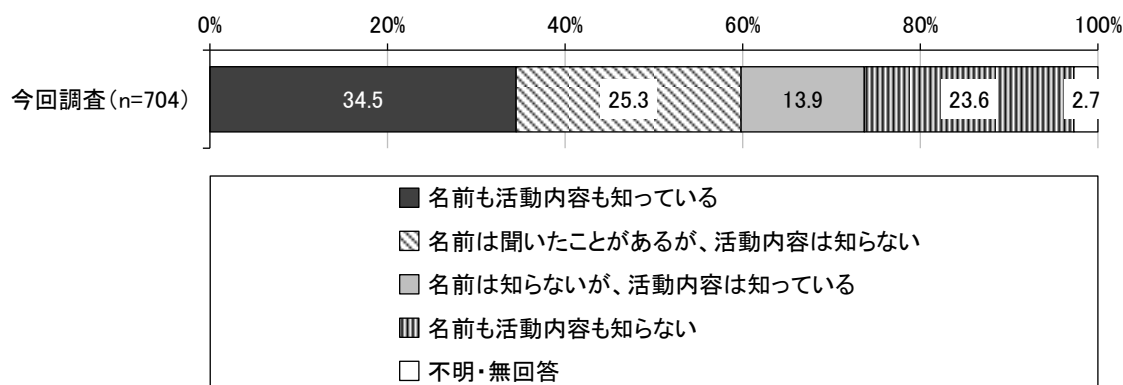
日常生活における課題の解決方法についてみると、「住民と行政が相互に連携し、お互いを補完し合って解決したい」が 44.2%と最も高く、次いで「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」が 28.1%、「行政に解決してもらえるように積極的に要求したい」が 12.6%となっています。

前回調査と比較すると、「自分たちの生活に関わることだから、できるだけ住民同士で協力して解決したい」は 9.9 ポイント減少し、「住民と行政が相互に連携し、お互いを補完し合って解決したい」が 7.2 ポイント増加しています。



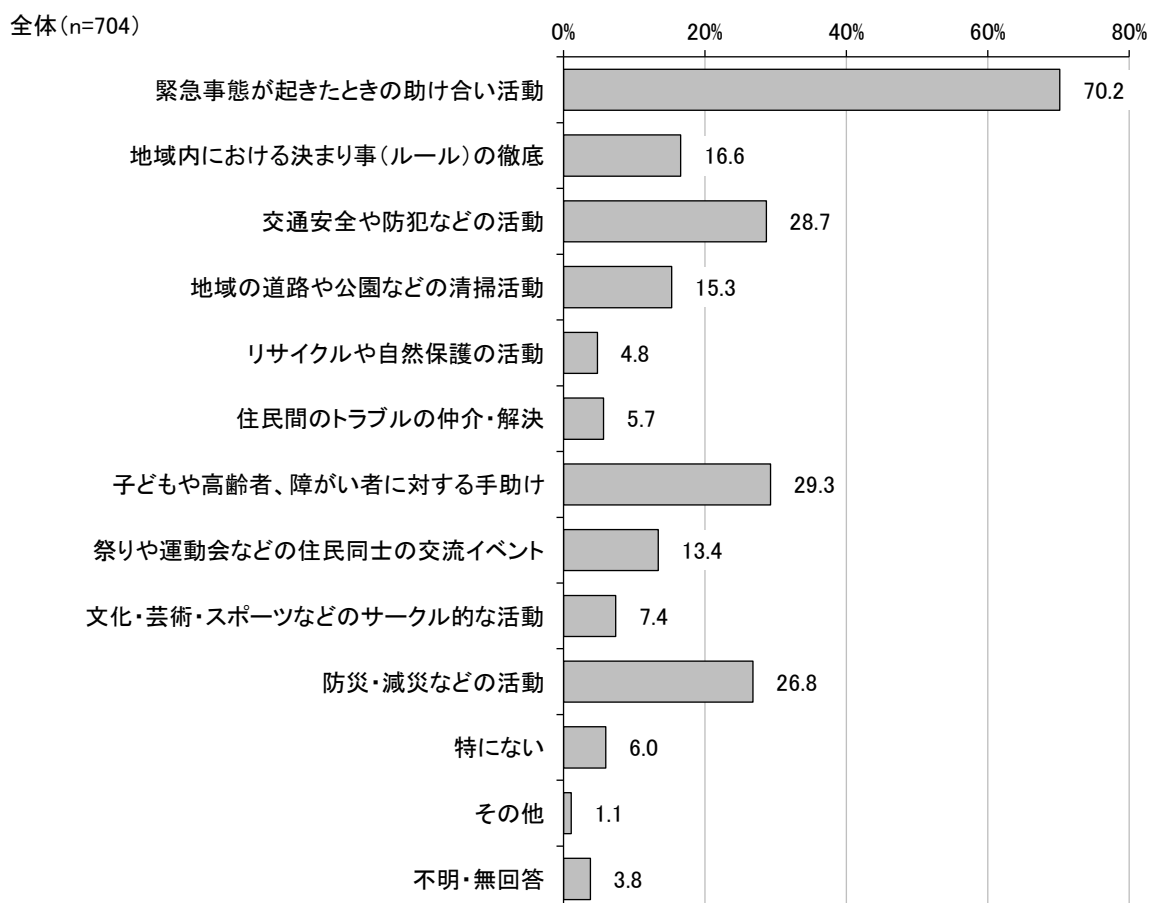
問 11 あなたは、住んでいる地域を担当している民生委員・児童委員を知っていますか。(ひとつだけ○)

住んでいる地域の民生委員・児童委員の認知度についてみると、「名前も活動内容も知っている」が 34.5%と最も高く、次いで「名前は聞いたことがあるが、活動内容は知らない」が 25.3%、「名前も活動内容も知らない」が 23.6%となっています。



問 12 あなたが住んでいる地域の中で安心して暮らしていくには、地域内でどのような活動があれば良いと思いますか。(〇は3つまで)

地域内であるとよいと思う活動についてみると、「緊急事態が起きたときの助け合い活動」が 70.2%と最も高く、次いで「子どもや高齢者、障がい者に対する手助け」が 29.3%、「交通安全や防犯などの活動」が 28.7%となっています。

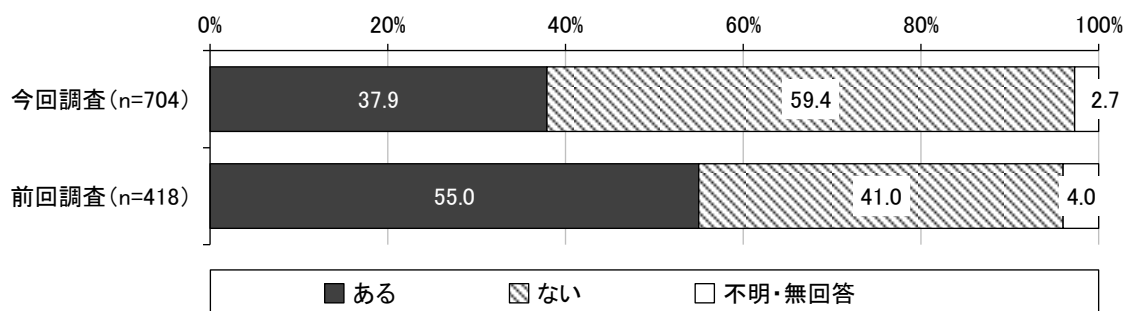


問 13 あなたは過去5年以内で地域活動・ボランティア活動をしたことがありますか。(どちらかに○)

過去5年以内の地域活動・ボランティア活動経験についてみると、「ない」が59.4%、「ある」が37.9%、となっています。

前回調査と比較すると、「ある」は17.1ポイント減少しています。

年代別にみると、10歳代～30歳代は「ない」が7割以上と高くなっています。また、50歳代～70歳代は「ある」「ない」がそれぞれ半数程度となっています。



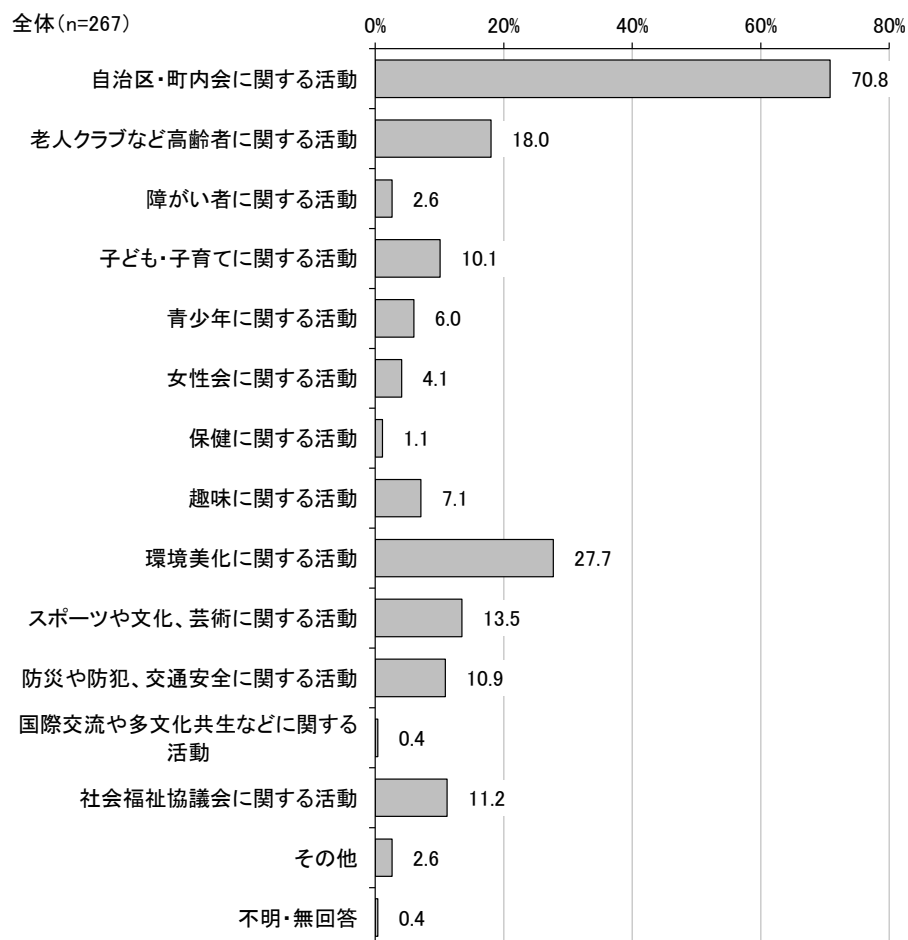
〈年代別〉

単位: %		ある	ない	不明・無回答
全体 (n=704)		37.9	59.4	2.7
年齢別	10歳代 (n=36)	22.2	77.8	0.0
	20歳代 (n=46)	15.2	84.8	0.0
	30歳代 (n=68)	26.5	70.6	2.9
	40歳代 (n=70)	38.6	57.1	4.3
	50歳代 (n=74)	47.3	52.7	0.0
	60歳代 (n=101)	43.6	51.5	5.0
	70歳代 (n=127)	52.0	47.2	0.8
	80歳代 (n=105)	40.0	54.3	5.7
	90歳以上 (n=69)	24.6	72.5	2.9

問 13 で「ある」を選ばれた方におたずねします。

問 13－（１） 主にどのような活動をされました（しています）か。（○は３つまで）

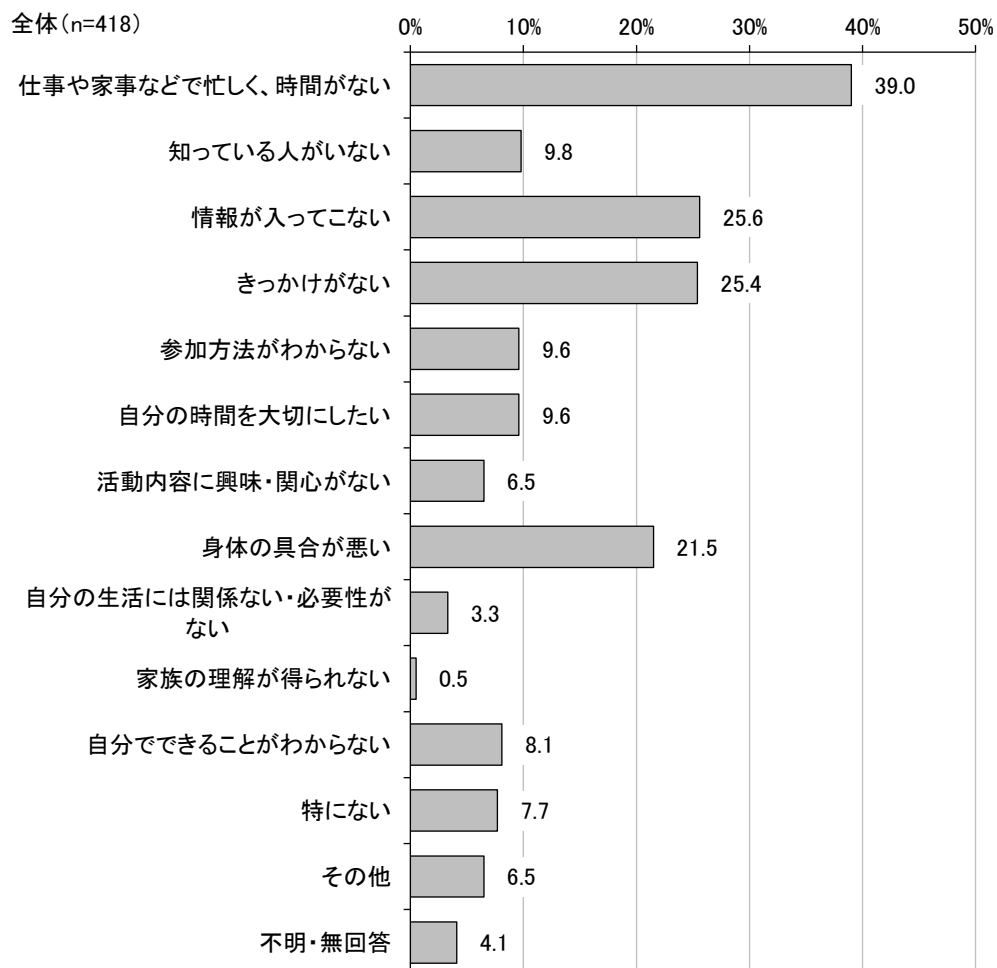
地域活動・ボランティア活動内容についてみると、「自治区・町内会に関する活動」が 70.8%と最も高く、次いで「環境美化に関する活動」が 27.7%、「老人クラブなど高齢者に関する活動」が 18.0%となっています。



問 13 で「ない」を選ばれた方におたずねします。

問 13－（２） 活動をしなかった理由は何ですか。（○は３つまで）

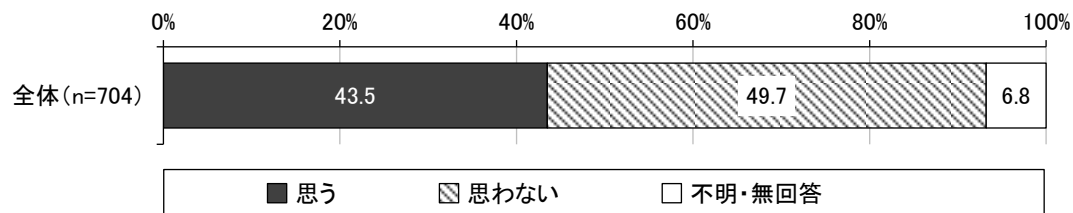
活動をしなかった理由についてみると、「仕事や家事などで忙しく、時間がない」が 39.0%と最も高く、次いで「情報が入ってこない」が 25.6%、「きっかけがない」が 25.4%となっています。



問 14 今後、地域活動・ボランティア活動をしたい（続けたい）と思いますか。（どちらかに○）

地域活動・ボランティア活動の意向についてみると、（やりたいと）「思わない」が 49.7%、「思う」が 43.5%となっています。

年代別にみると、「思う」は 10 歳代～60 歳代にかけて、年代が上がるにつれておおむね上昇しています。



〈年代別〉

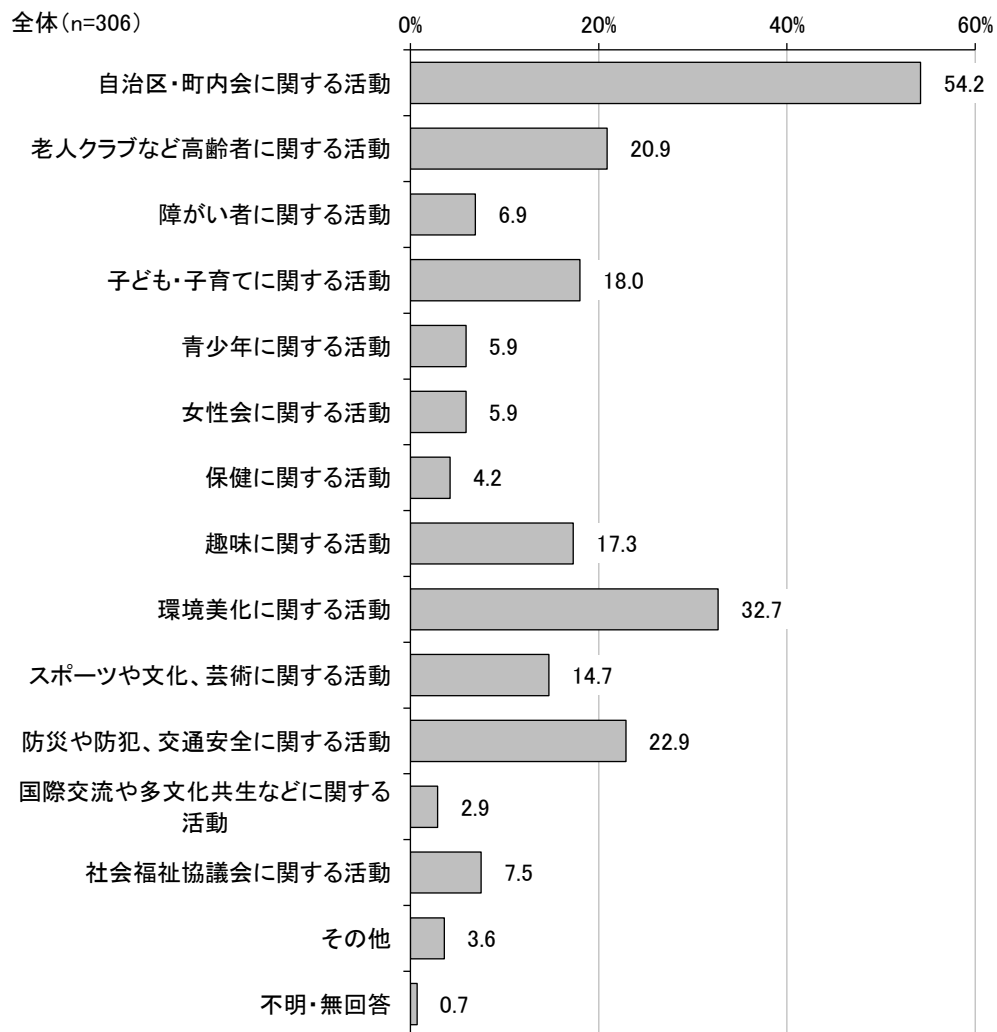
単位：%		思う	思わない	不明・無回答
全体 (n=704)		43.5	49.7	6.8
年齢別	10歳代 (n=36)	33.3	66.7	0.0
	20歳代 (n=46)	39.1	60.9	0.0
	30歳代 (n=68)	44.1	52.9	2.9
	40歳代 (n=70)	41.4	52.9	5.7
	50歳代 (n=74)	52.7	45.9	1.4
	60歳代 (n=101)	61.4	33.7	5.0
	70歳代 (n=127)	48.8	45.7	5.5
	80歳代 (n=105)	30.5	52.4	17.1
	90歳以上 (n=69)	24.6	60.9	14.5

問 14 で「思う」を選ばれた方におたずねします。

問 14－（１） 今後、地域活動・ボランティア活動を行うとしたらどのような活動ですか。

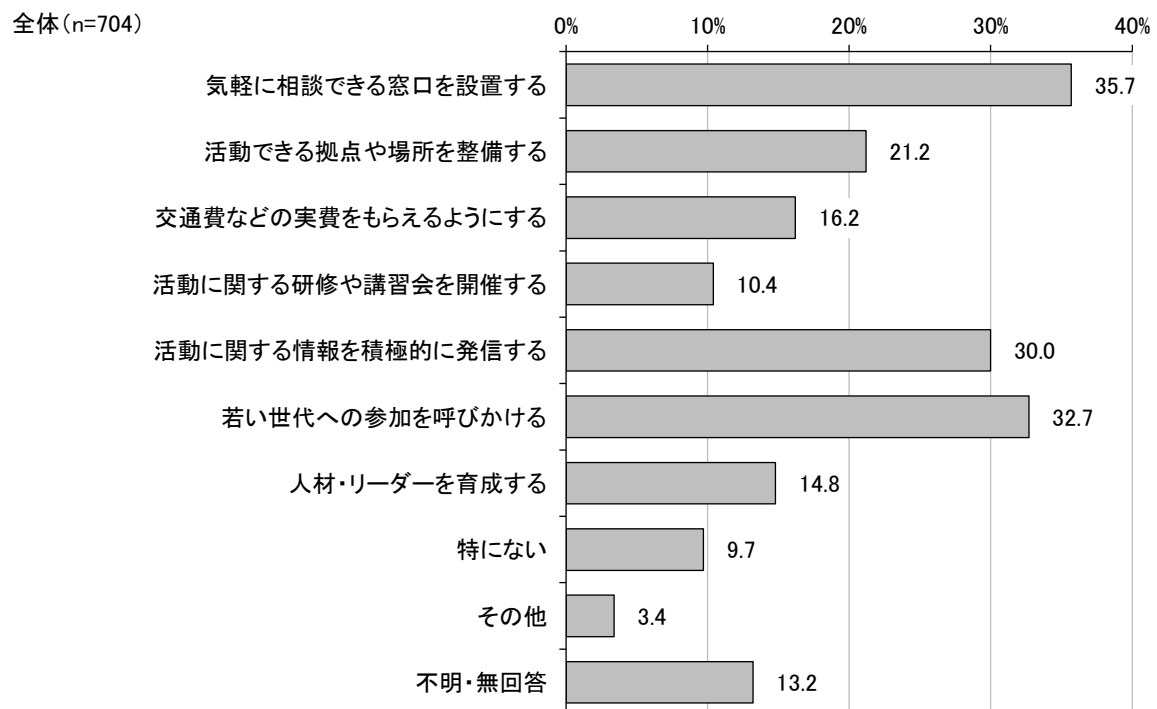
（○は３つまで）

今後やりたい地域活動・ボランティア活動についてみると、「自治区・町内会に関する活動」が 54.2%と最も高く、次いで「環境美化に関する活動」が 32.7%、「防災や防犯、交通安全に関する活動」が 22.9%となっています。



問 15 今後、地域活動やボランティア活動の輪を広げていくためには、特にどのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

地域活動やボランティア活動の輪を広げていくために必要なことについてみると、「気軽に相談できる窓口を設置する」が35.7%と最も高く、次いで「若い世代への参加を呼びかける」が32.7%、「活動に関する情報を積極的に発信する」が30.0%となっています。

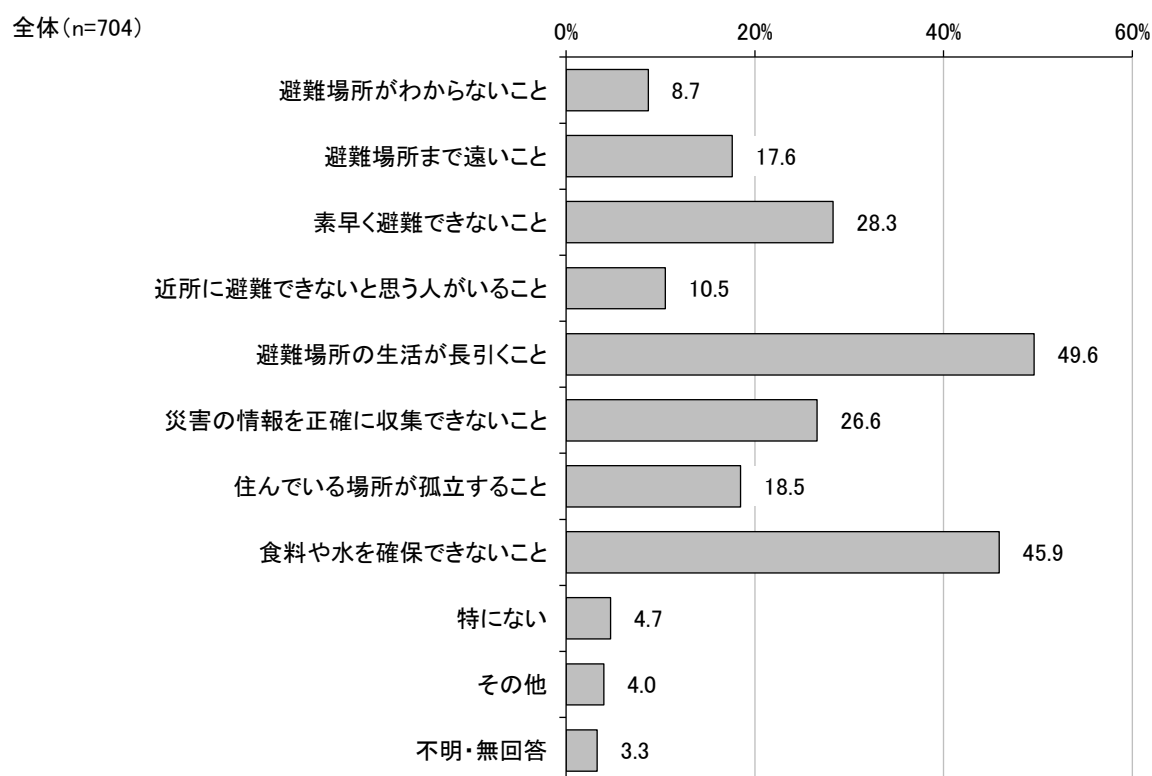


3 災害などの緊急時の対応について

問 16 あなたは、もしかつらぎ町に大きな災害（地震や台風、土砂災害など）が起こった時に、どのようなことが不安ですか。（○は3つまで）

大きな災害が起こった時の不安についてみると、「避難場所の生活が長引くこと」が 49.6%と最も高く、次いで「食料や水を確保できないこと」が 45.9%、「素早く避難できないこと」が 28.3%となっています。

年代別にみると、10 歳代、30 歳代、40 歳代は「食料や水を確保できないこと」が最も高く、20 歳代、50 歳代～70 歳代は「避難場所の生活が長引くこと」、80 歳代、90 歳以上は「素早く避難できないこと」が最も高くなっています。

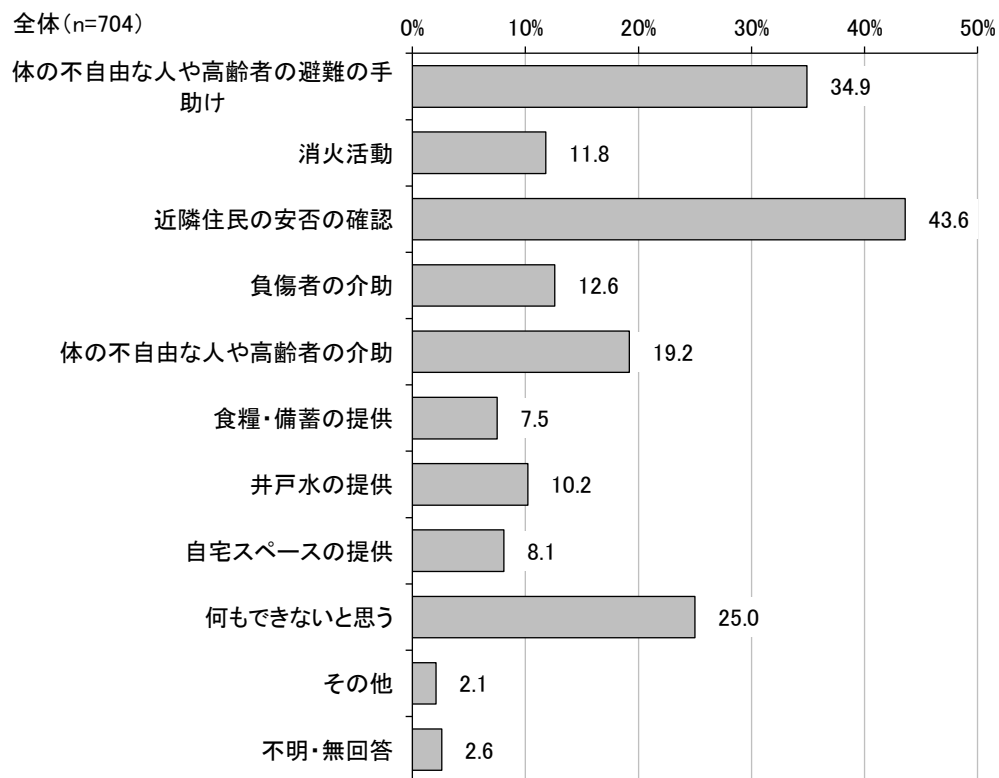


〈年代別〉

単位：％		避難場所がわからないこと	避難場所まで遠いこと	素早く避難できないこと	近所に避難できないと思う人がいること	避難場所の生活が長引くこと	災害の情報を正確に収集できないこと	住んでいる場所が孤立すること	食料や水を確保できないこと	特にない	その他	不明・無回答
全体 (n=704)		8.7	17.6	28.3	10.5	49.6	26.6	18.5	45.9	4.7	4.0	3.3
年齢別	10歳代 (n=36)	8.3	5.6	27.8	16.7	33.3	22.2	8.3	66.7	8.3	2.8	2.8
	20歳代 (n=46)	8.7	13.0	17.4	10.9	56.5	45.7	15.2	52.2	0.0	4.3	0.0
	30歳代 (n=68)	14.7	8.8	22.1	11.8	48.5	29.4	19.1	57.4	4.4	4.4	1.5
	40歳代 (n=70)	2.9	8.6	8.6	10.0	62.9	22.9	17.1	72.9	5.7	10.0	1.4
	50歳代 (n=74)	10.8	10.8	13.5	6.8	70.3	33.8	21.6	52.7	1.4	6.8	1.4
	60歳代 (n=101)	8.9	13.9	18.8	11.9	56.4	20.8	19.8	45.5	5.0	5.0	1.0
	70歳代 (n=127)	7.1	18.9	28.3	13.4	48.0	33.1	24.4	33.1	3.9	0.8	3.1
	80歳代 (n=105)	6.7	31.4	51.4	8.6	34.3	22.9	17.1	29.5	6.7	1.9	7.6
	90歳以上 (n=69)	11.6	33.3	56.5	5.8	36.2	14.5	13.0	36.2	5.8	2.9	5.8

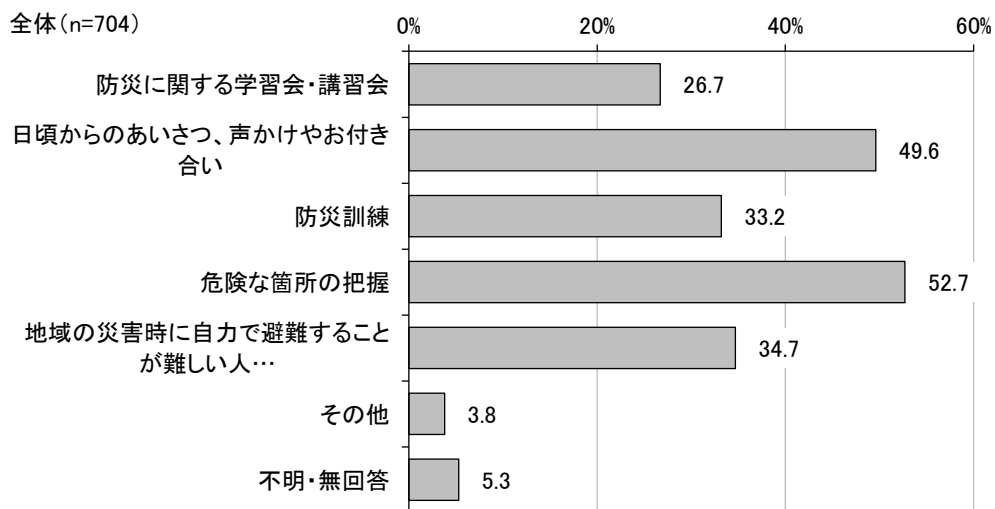
問 17 実際の災害時に自分ができると思うことは何ですか。(〇は3つまで)

実際の災害時に自分ができると思うことについてみると、「近隣住民の安否の確認」が 43.6%と最も高く、次いで「体の不自由な人や高齢者の避難の手助け」が 34.9%、「何もできないと思う」が 25.0%となっています。



問 18 あなたは、地域における災害時の備えとして、どのような取り組みが重要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

地域における災害時の備えとして重要なことについてみると、「危険な箇所の把握」が 52.7%と最も高く、次いで「日頃からのあいさつ、声かけやお付き合い」が 49.6%、「地域の災害時に自力で避難することが難しい人（避難行動要支援者）の把握」が 34.7%となっています。



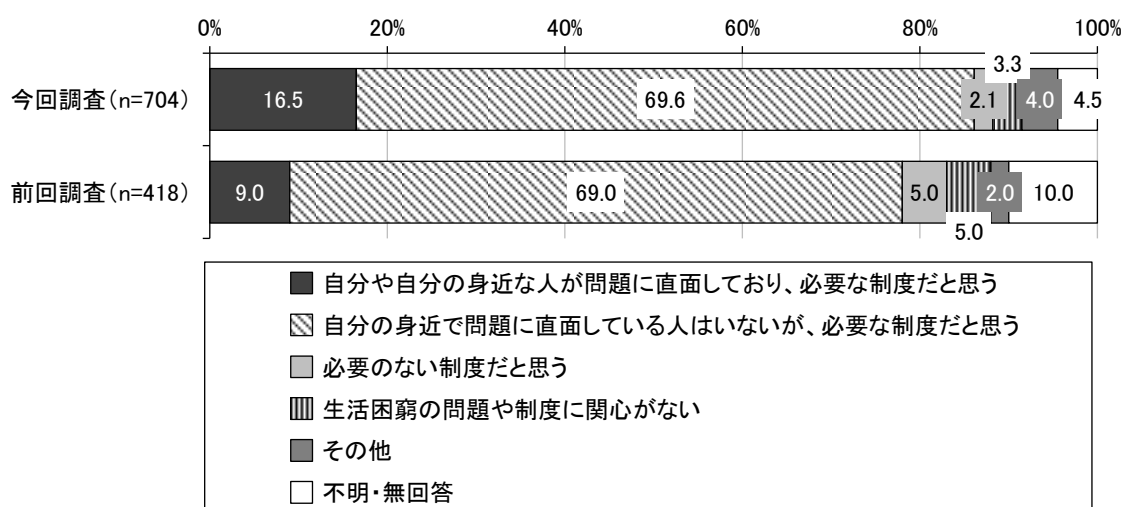
4 生活困窮の問題について

問 19 生活困窮の問題や支援制度についてどう思われますか。(ひとつだけ○)

生活困窮の問題についての考えについてみると、「自分の身近で問題に直面している人はいないが、必要な制度だと思う」が 69.6%と最も高く、「自分や自分の身近な人が問題に直面しており、必要な制度だと思う」が 16.5%となっています。

前回調査と比較すると、「自分や自分の身近な人が問題に直面しており、必要な制度だと思う」が 7.5ポイント上昇しています。

世帯別にみると、ひとり世帯では、「自分や自分の身近な人が問題に直面しており、必要な制度だと思う」が 24.6%と、全体に比べ高くなっています。



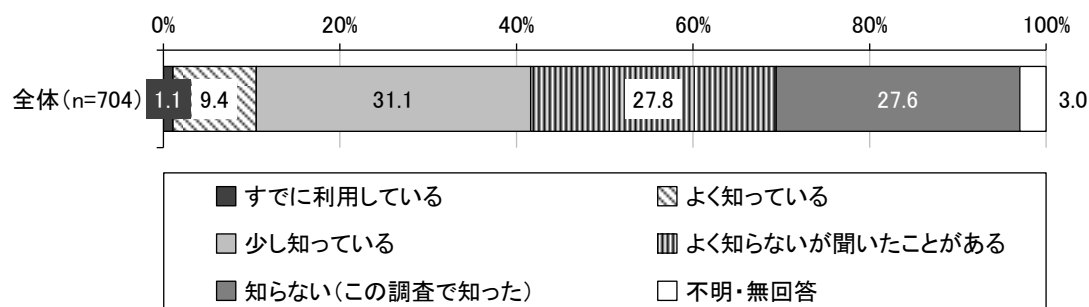
〈世帯別〉

単位: %		自分や自分の身近な人が問題に直面しており、必要な制度だと思う	自分の身近で問題に直面している人はいないが、必要な制度だと思う	必要のない制度だと思う	生活困窮の問題や制度に関心がない	その他	不明・無回答
全体 (n=704)		16.5	69.6	2.1	3.3	4.0	4.5
世帯別	ひとり世帯 (n=114)	24.6	63.2	3.5	1.8	2.6	4.4
	夫婦のみの世帯 (n=177)	14.7	74.0	1.7	2.3	3.4	4.0
	2世代の世帯 (親と子) (n=311)	15.4	69.1	1.6	4.8	5.1	3.9
	3世代の世帯 (親と子と孫) (n=79)	11.4	78.5	3.8	2.5	1.3	2.5
	その他 (n=15)	20.0	46.7	0.0	0.0	13.3	20.0

5 成年後見制度について

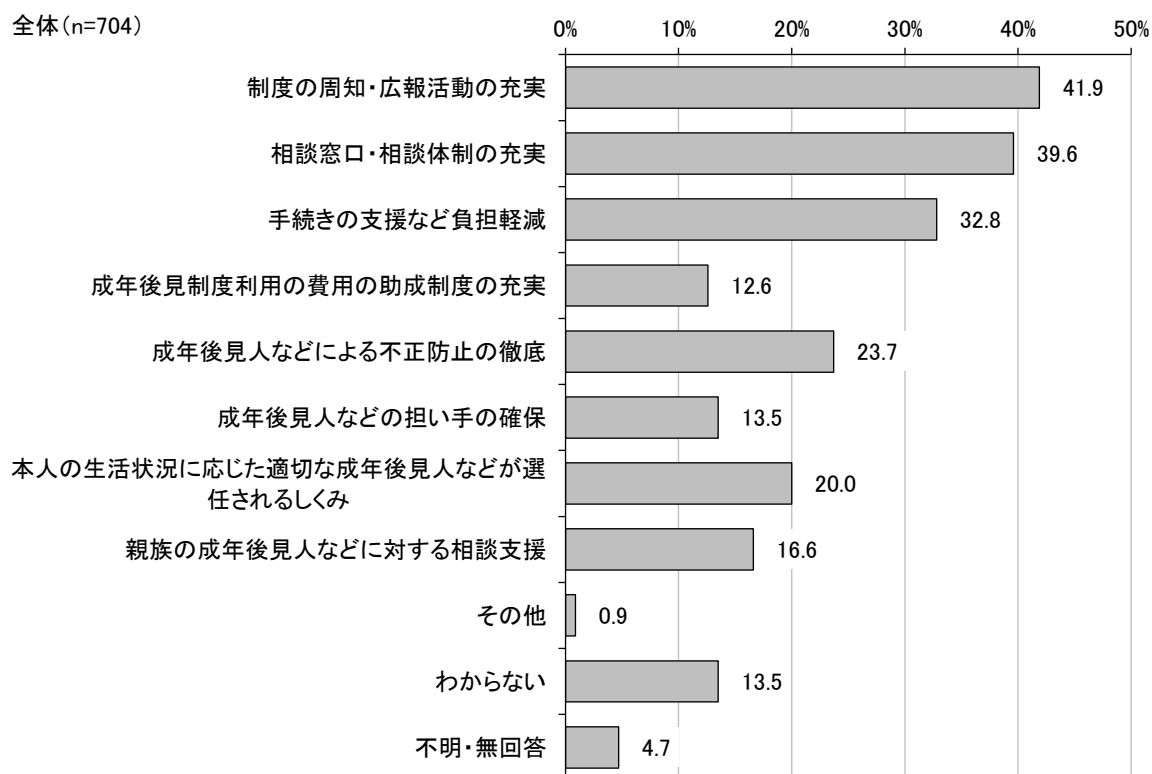
問 20 あなたは、「成年後見制度」について知っていますか。(ひとつだけ○)

成年後見制度の認知度についてみると、「少し知っている」が 31.1%と最も高く、次いで「よく知らないが聞いたことがある」が 27.8%、「知らない(この調査で知った)」が 27.6%となっています。



問 21 今後、成年後見制度について利用の促進、充実を図っていくためにはどのようなことが重要だと思いますか。(○は3つまで)

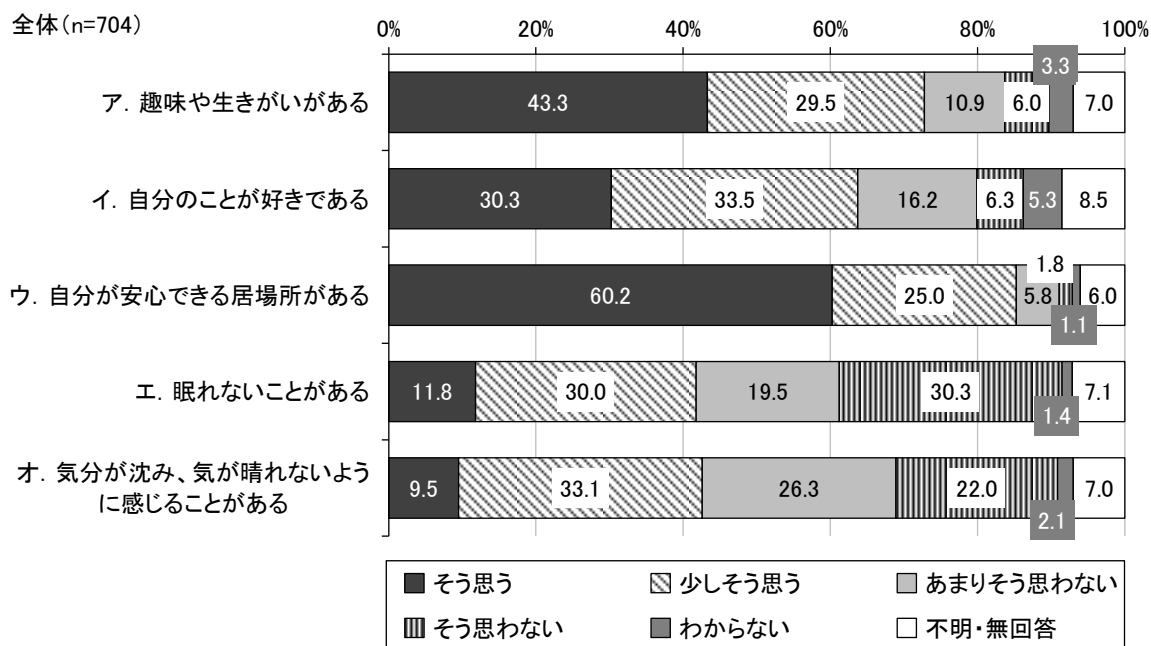
成年後見制度の利用促進のために重要なことについてみると、「制度の周知・広報活動の充実」が 41.9%と最も高く、次いで「相談窓口・相談体制の充実」が 39.6%、「手続きの支援など負担軽減」が 32.8%となっています。



6 こころの健康と自殺対策について

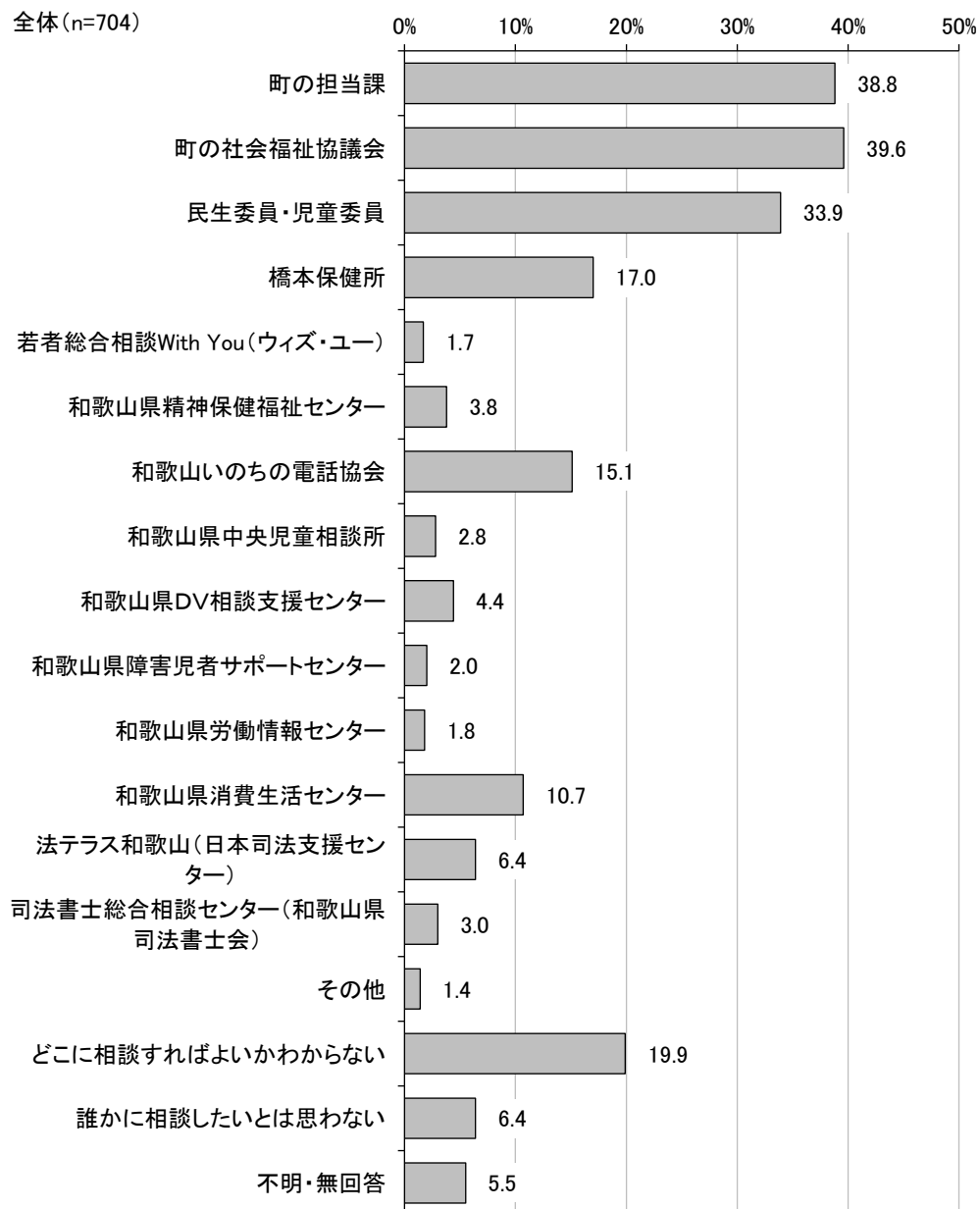
問 22 あなたの日常生活の中であてはまるものはどれですか。(それぞれ1つに○)

日常生活のこころの状態についてみると、『ウ. 自分が安心できる居場所がある』では「そう思う」が60.2%と半数以上を占めています。また、『エ. 眠れないことがある』『オ. 気分が沈み、気が晴れないように感じることもある』は「そう思う」が1割前後となっています。



問 23 あなたは、問題に直面したとき、相談できる窓口として以下の相談機関を知っていますか。(〇はいくつでも)

相談機関の認知度についてみると、「町の社会福祉協議会」が 39.6%と最も高く、次いで「町の担当課」が 38.8%、「民生委員・児童委員」が 33.9%となっています。



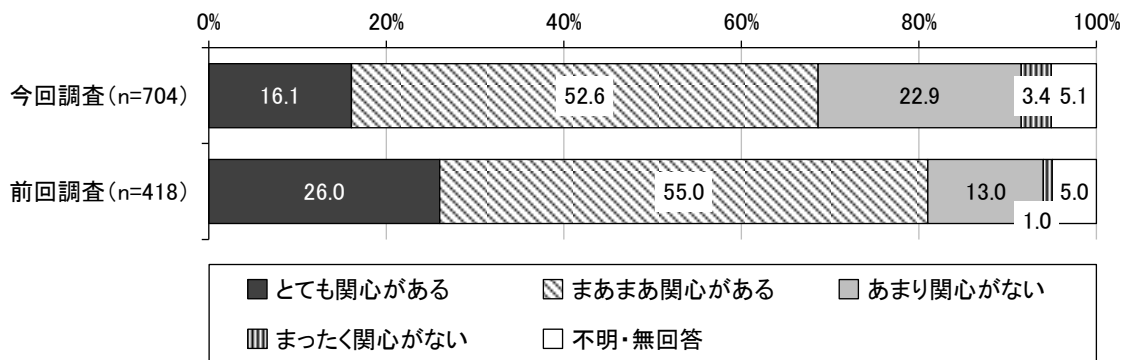
7 福祉と福祉サービスについて

問 24 あなたは福祉に関心をお持ちですか。(ひとつだけ○)

福祉への関心についてみると、「まあまあ関心がある」が 52.6%と最も高く、次いで「あまり関心がない」が 22.9%、「とても関心がある」が 16.1%となっています。

前回調査と比較すると、「とても関心がある」は 9.9 ポイント低下し、「あまり関心がない」は 9.9 ポイント上昇しています。

年代別にみると、60 歳代～80 歳代は、『関心あり（「とても関心がある」「まあまあ関心がある」の計）』が 7 割半ば以上と高くなっています。



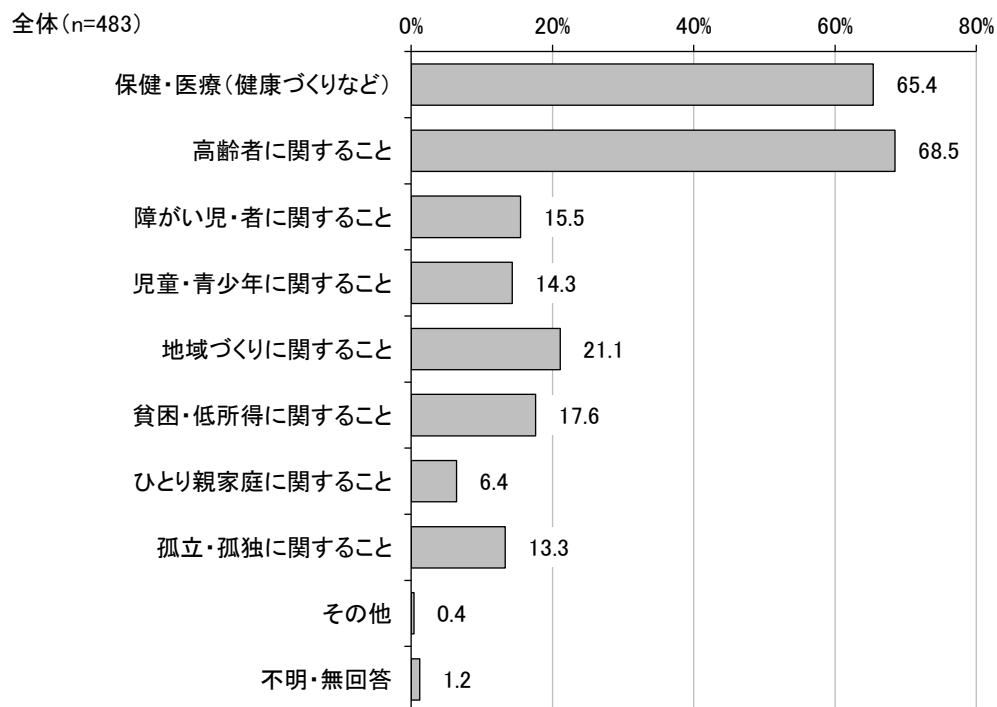
〈年代別〉

単位：%		とても関心がある	まあまあ関心がある	あまり関心がない	まったく関心がない	不明・無回答
全体 (n=704)		16.1	52.6	22.9	3.4	5.1
年齢別	10歳代 (n=36)	11.1	30.6	38.9	19.4	0.0
	20歳代 (n=46)	6.5	47.8	37.0	4.3	4.3
	30歳代 (n=68)	4.4	61.8	25.0	7.4	1.5
	40歳代 (n=70)	10.0	50.0	32.9	2.9	4.3
	50歳代 (n=74)	16.2	51.4	28.4	1.4	2.7
	60歳代 (n=101)	10.9	65.3	18.8	2.0	3.0
	70歳代 (n=127)	11.8	64.6	18.9	1.6	3.1
	80歳代 (n=105)	35.2	42.9	11.4	1.0	9.5
	90歳以上 (n=69)	27.5	37.7	18.8	2.9	13.0

問 24 で「とても関心がある」「まあまあ関心がある」を選ばれた方におたずねします。

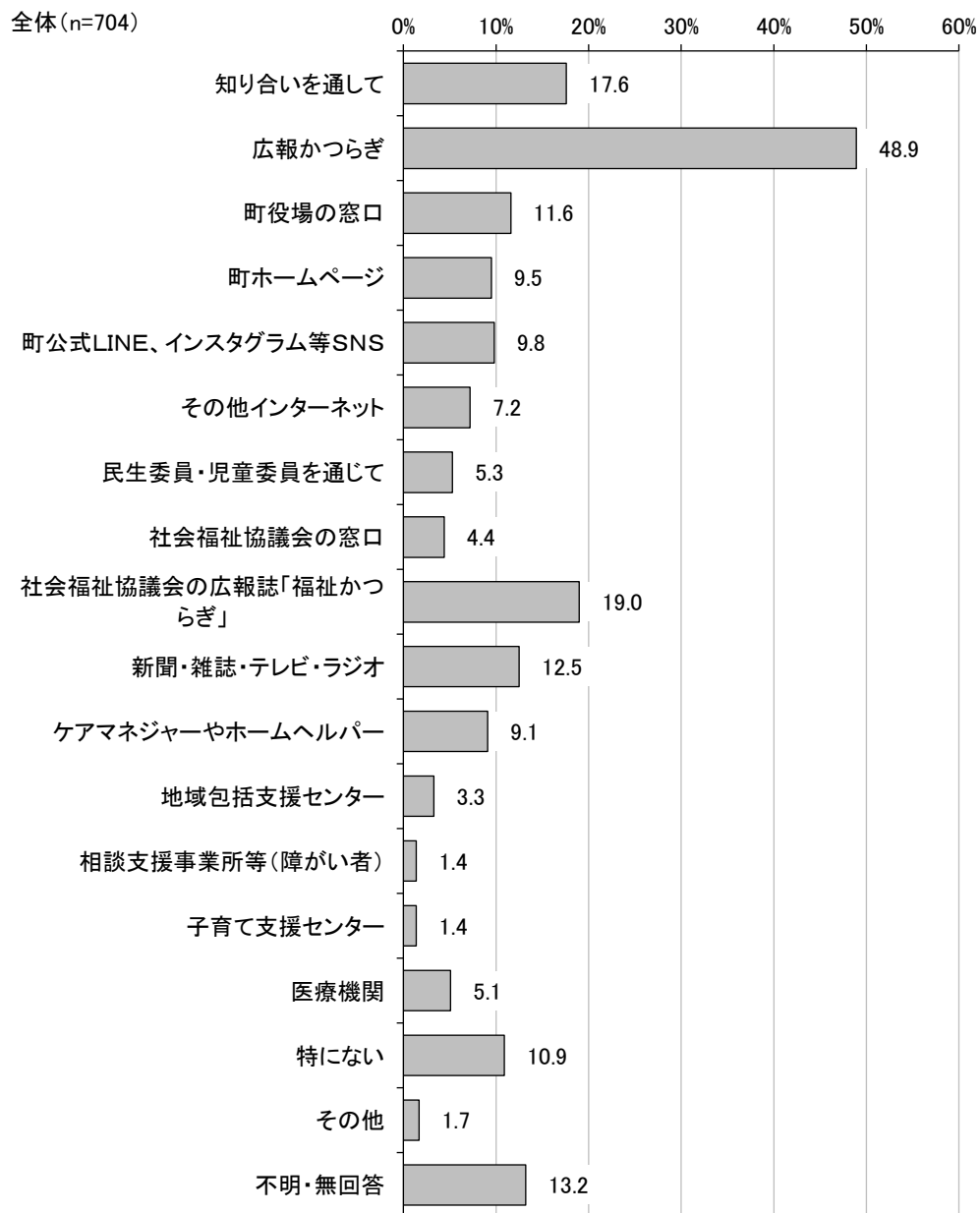
問 24－（１）福祉のどの分野に関心がありますか。（○は３つまで）

関心のある福祉分野についてみると、「高齢者に関すること」が 68.5%と最も高く、次いで「保健・医療（健康づくりなど）」が 65.4%、「地域づくりに関すること」が 21.1%となっています。



問 25 あなたは、「福祉サービス」に関する情報を主にどこから入手していますか。(〇は3つまで)

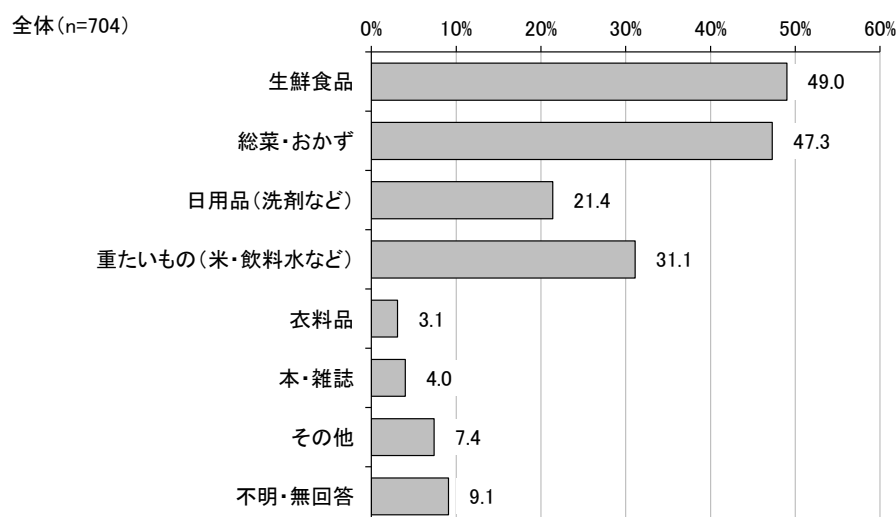
「福祉サービス」に関する情報入手先についてみると、「広報かつらぎ」が 48.9%と最も高く、次いで「社会福祉協議会の広報誌「福祉かつらぎ」」が 19.0%、「知り合いを通して」が 17.6%となっています。



8 「かつらぎ町の地域福祉施策」について

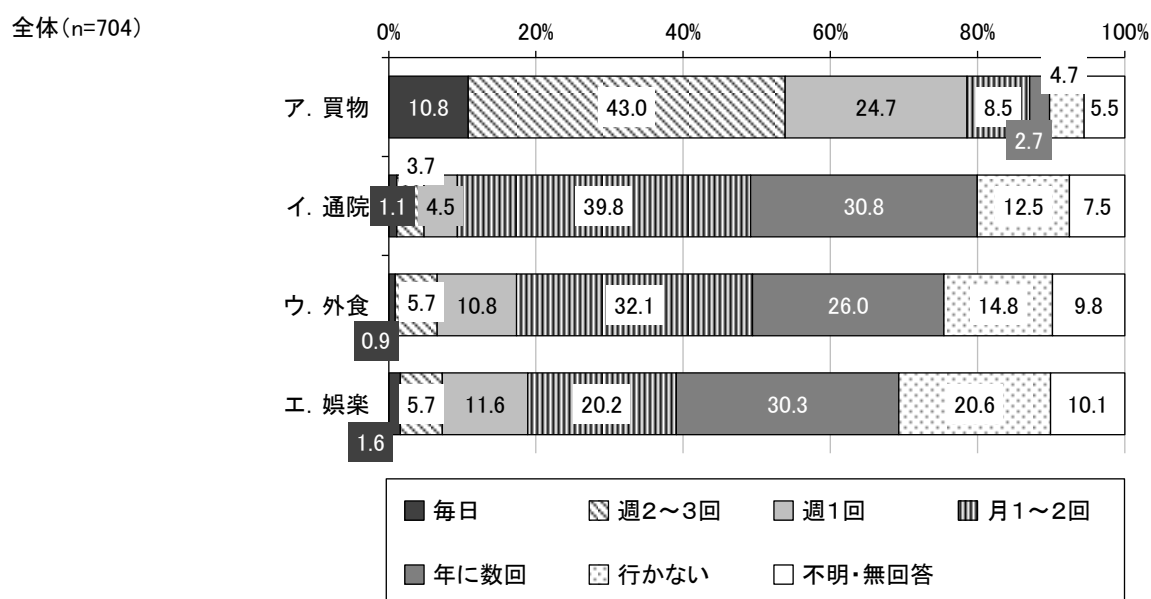
問 26 移動販売が自宅の近くの公民館に来る場合、何を販売してほしいですか。（2つに○）

移動販売で販売してほしいものについてみると、「生鮮食品」が 49.0%と最も高く、次いで「総菜・おかず」が 47.3%、「重たいもの（米・飲料水など）」が 31.1%となっています。



問 27 各目的別に該当する外出の頻度はいかがですか。（ア～エの各項目について、ひとつだけ○）

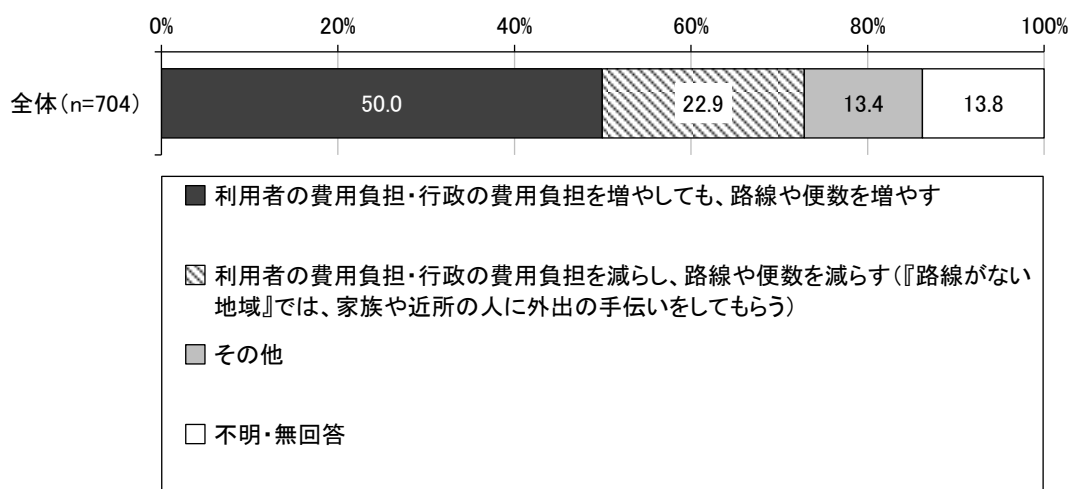
目的別外出の頻度についてみると、『ア. 買物』では「週2～3回」が 43.0%と最も高くなっています。『イ. 通院』『ウ. 外食』では「月1～2回」が 39.8%と最も高くなっています。『エ. 娯楽』は「年に数回」が 30.3%となっています。



問 28 かつらぎ町では、コミュニティバス及びデマンド型乗合タクシーを運行していますが、『路線がない地域』もあります。このような『路線がない地域』について、あなたは、町の今後の方向性として、どのようなお考えをお持ちですか。（ひとつだけ○）

『路線がない地域』の方向性についてみると、「利用者の費用負担・行政の費用負担を増やしても、路線や便数を増やす」が50.0%と最も高く、次いで「利用者の費用負担・行政の費用負担を減らし、路線や便数を減らす（『路線がない地域』では、家族や近所の人に外出の手伝いをしてもらう）」が22.9%となっています。

地域別にみると、志賀地区、花園地区は、「利用者の費用負担・行政の費用負担を増やしても、路線や便数を増やす」が全体よりも8.8ポイント以上高く、四邑地区では、「利用者の費用負担・行政の費用負担を減らし、路線や便数を減らす（『路線がない地域』では、家族や近所の人に外出の手伝いをしてもらう）」が44.4%と高くなっています。

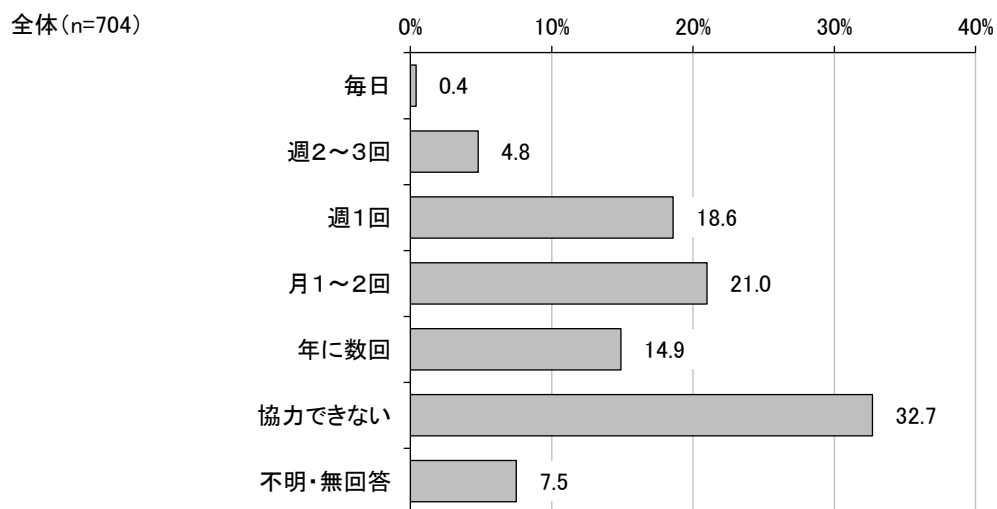


〈地域別〉

単位：%		利用者の負担を増やす	利用者の負担を増やす	利用者の負担を増やす	その他	不明・無回答
		利用者の負担を増やす	利用者の負担を増やす	利用者の負担を増やす	その他	不明・無回答
全体(n=704)		50.0	22.9	13.4	13.8	
地域別	四郷地区(n=19)	47.4	26.3	15.8	10.5	
	笠田地区(n=199)	50.3	19.6	14.1	16.1	
	大谷地区(n=64)	45.3	25.0	17.2	12.5	
	妙寺地区(n=233)	49.4	25.3	14.6	10.7	
	見好地区(n=69)	56.5	18.8	10.1	14.5	
	四邑地区(n=18)	33.3	44.4	0.0	22.2	
	三谷地区(n=47)	53.2	21.3	12.8	12.8	
	志賀地区(n=8)	62.5	25.0	0.0	12.5	
	天野地区(n=14)	50.0	28.6	7.1	14.3	
	新城地区(n=4)	50.0	0.0	25.0	25.0	
	花園地区(n=17)	58.8	17.6	5.9	17.6	

問 29 あなたは近所の人から外出の手伝い（車での送迎）を頼まれた場合、どの程度なら協力できると思いますか。（ひとつだけ○）

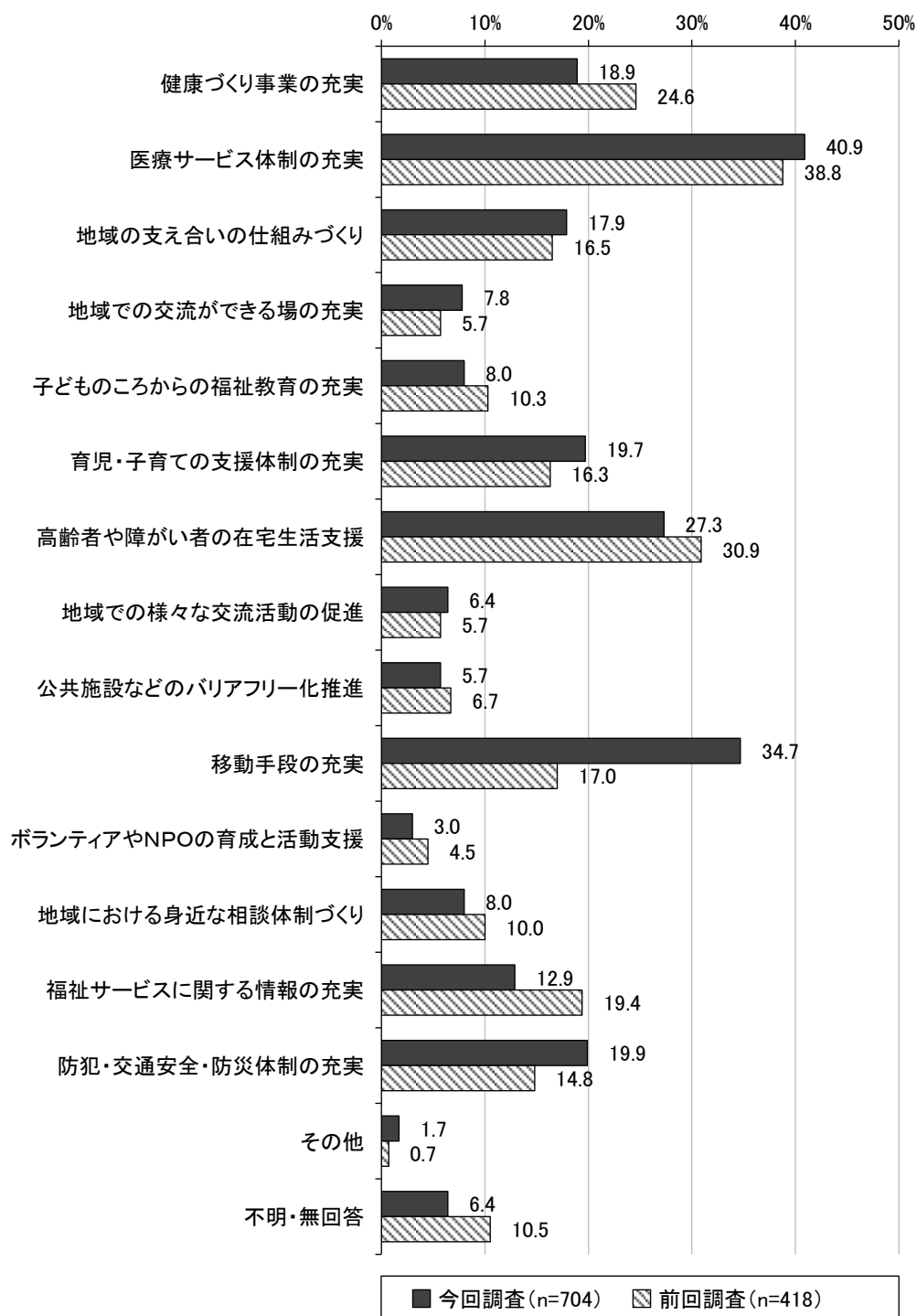
外出の手伝いへの協力についてみると、「協力できない」が 32.7%と最も高く、次いで「月 1～2 回」が 21.0%、「週 1 回」が 18.6%となっています。



問 30 今後、地域福祉を進めるためにかつらぎ町はどのような施策に優先して取り組んでいくべきだと思いますか。(〇は3つまで)

優先して取り組むべき施策についてみると、「医療サービス体制の充実」が 40.9%と最も高く、次いで「移動手段の充実」が 34.7%、「高齢者や障がい者の在宅生活支援」が 27.3%となっています。

前回調査と比較すると、「移動手段の充実」が 17.7 ポイント上昇しています。

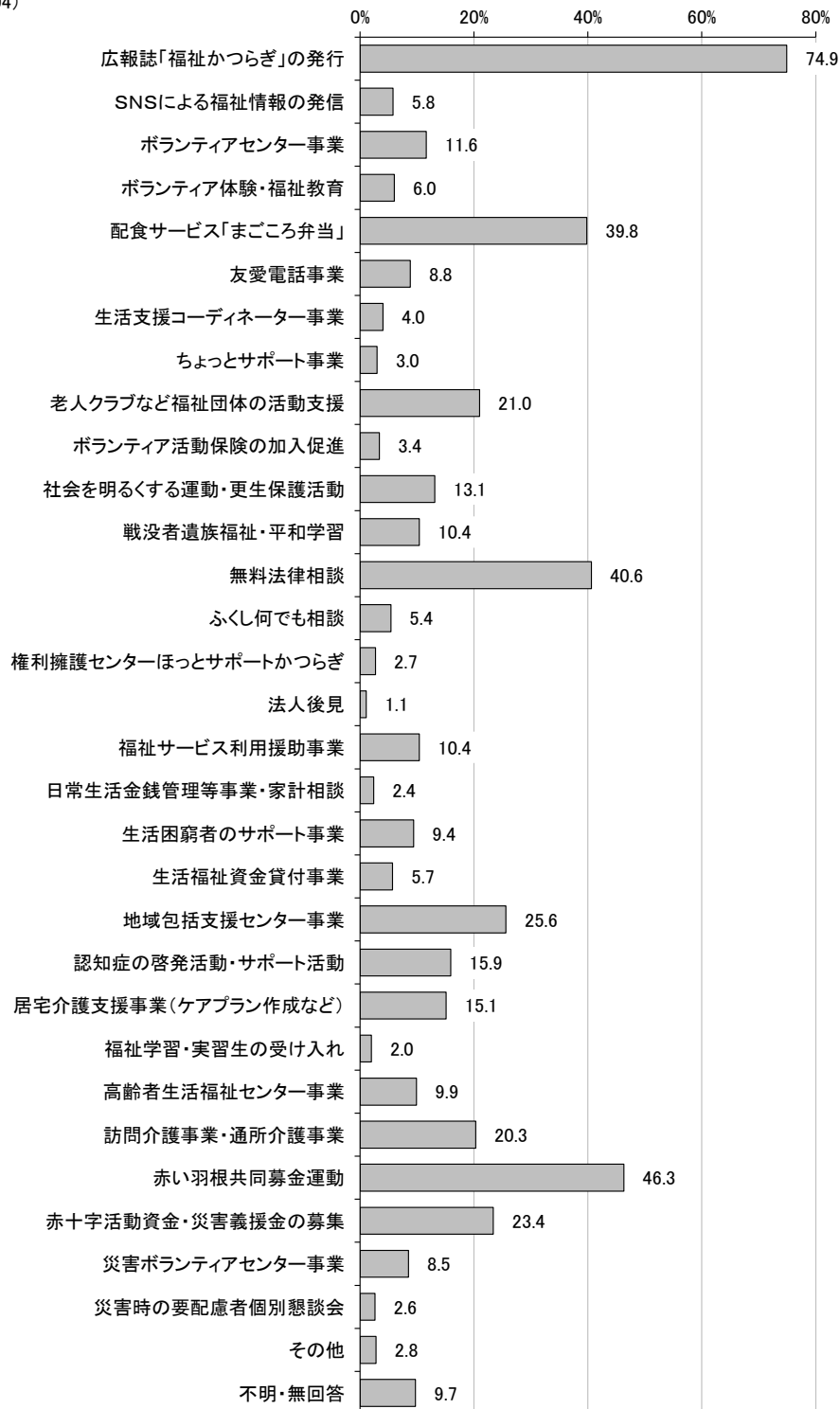


9 「社会福祉協議会」の活動について

問 31 あなたの知っているかつらぎ町社会福祉協議会の活動はどれですか。(〇はいくつでも)

かつらぎ町社会福祉協議会の活動の認知度についてみると、広報誌「福祉かつらぎ」の発行が74.9%と最も高く、次いで「赤い羽根共同募金運動」が46.3%、「無料法律相談」が40.6%となっています。

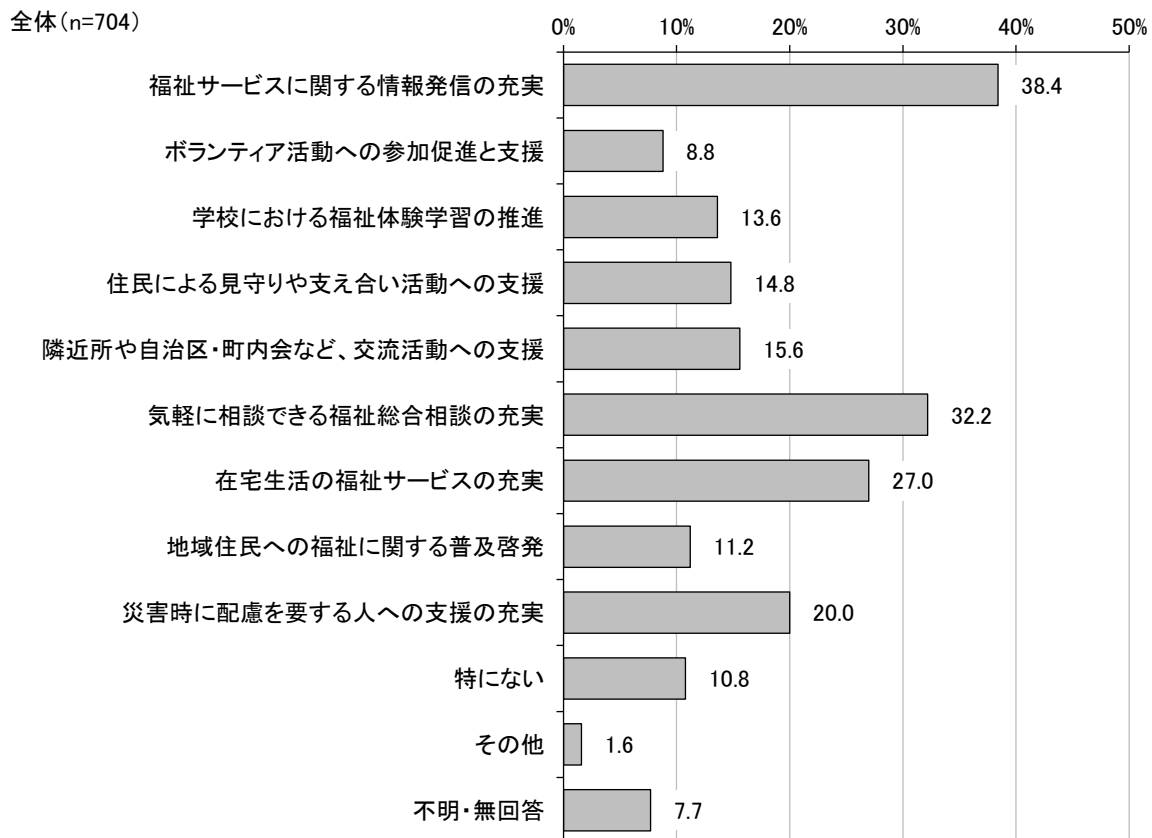
全体 (n=704)



問 32 社会福祉協議会が行う活動・支援として、今後、充実してほしいものはどれですか。

(〇は3つまで)

社会福祉協議会が行う活動・支援で充実してほしいものについてみると、「福祉サービスに関する情報発信の充実」が38.4%と最も高く、次いで「気軽に相談できる福祉総合相談の充実」が32.2%、「在宅生活の福祉サービスの充実」が27.0%となっています。



地域福祉に関するご意見（自由回答）

カテゴリ	件数
移動手段の不足・支援 （通院への補助、山間部地区の移動手段等）	12
買い物環境の改善 （町内スーパー閉店により買い物が不便になった、移動販売の拡大の要望等）	9
アンケート調査に関すること （LINE や Web 回答の要望、高齢でアンケートに回答できない、答えにくい等）	9
行政運営の改善 （行政の仕組みの改善、透明化、迅速化について等）	8
交通環境・道路環境の改善 （舗道の整備、道路わきの除草、防犯カメラ設置等地域安全について等）	7
自治会、ボランティア等の担い手不足 （自治会への加入促進、ボランティアの高齢化、地域活動の持続可能性等）	7
高齢者福祉 （福祉サービスへのお礼、高齢者を大切に、町営住宅の高齢者支援等）	6
障がい者・児福祉 （医療費の無償化・補助、A 型事業所の整備、医療的ケア児家族の負担等）	6
子育て・教育支援 （安全に遊べる場所の整備、学生の居場所等）	6
その他福祉の充実 （健康増進施設の整備、低所得者支援、特徴ある福祉の充実等）	6
福祉活動の推進 （活動の継続、ボランティアと行政運営、相談体制の充実、成年後見制度等）	6
若者・就労世代への支援 （現役世代への支援、働く場の確保、学生への支援等）	5
災害時に関すること （避難所の増設、避難者の把握方法、避難所の空調設備の改善等）	3
地域交流の促進 （公民館活動の活発化、身近な地域での交流促進、地域の祭り等）	3
その他 （特になし、未来への希望、住みよい環境への希望等）	7

かつらぎ町地域福祉計画・地域福祉活動計画
策定のためのアンケート調査結果報告書

発行：かつらぎ町 住民福祉課 社会福祉係
〒649-7192 和歌山県伊都郡かつらぎ町大字丁ノ町 2160 番地
TEL:0736-22-0300
FAX:0736-22-6432

発行年月：令和6年12月